

能登半島北部の重力異常

Bouguer Anomalies in the Northern Noto Peninsula

澤田 明宏^{1*}, 本多 亮², 平松 良浩¹, 河野 芳輝³

Akihiro Sawada^{1*}, Ryo Honda², Yoshihiro Hiramatsu¹, Yoshiteru Kono³

¹金沢大・自然, ²北大・理, ³なし

¹Natural Sci., Kanazawa Univ., ²ISV, Hokkaido Univ., ³none

1. はじめに

能登半島地域は丘陵性山地や丘陵と低地からなり, 新第三紀・第四紀に形成された北東-南西方向の傾動地塊山地とその地塊構造, 地塊運動により特徴づけられる. この地塊構造は能登半島西方海域でも確認されており, 2007年能登半島地震はこのような地塊構造で区画された断層区間を震源断層として発生したと考えられている.

2. 重力探査

2007年能登半島地震の発生以来, 我々はこれまでに能登半島全域において重力測定を行っている. 2009年地震学会で報告した後, それまでに測定点分布が疎な地域について重力測定点を追加した. 今回の発表では現在までに測定された重力測定データに北陸電力, 国土地理院, 地質調査総合センター, 西南日本重力研究グループにより測定または公表されたデータを加えることにより, 能登半島地域の詳細な重力異常図を作成した. ブーゲー異常値の計算にあたり, 仮定密度を 2670kg/m^3 とし, Honda and Kono(2005)による地形補正処理を行った.

3. 能登半島北部の重力異常

ブーゲー異常の傾向として, 内浦-宇出津, 曾々木以東の海岸域, 門前以南の地域に高い異常がみられ, 飯田付近, 門前-輪島-穴水周辺, 曾々木西方において比較的低い異常がみられる. 重力異常値の分布と地塊構造分布, 地質構造とを比較すると, 重力異常値の高い地域は主に第三紀火山岩類が存在し, 一方重力異常値の低い地域では主に第三紀堆積岩類が多く存在するというように, これらの間に良い相関がみられる. 本発表では, 重力異常図とともに能登半島地域の地質構造との関連について報告する.

キーワード:ブーゲー異常,能登半島

Keywords: Bouguer anomaly, Noto peninsula